

途上国投資

BRICsとは

- ブラジル、ロシア、インド、中国
- BRICsの特徴
 - 国土が広い
 - 人口が多い
 - 天然資源が豊富
 - GDPの成長が早い

GDPで見た世界

順位	2025年	2050年
1	米国	中国
2	中国	米国
3	日本	インド
4	インド	ブラジル
5	ドイツ	メキシコ
6	ロシア	ロシア
7	英国	インドネシア
8	フランス	日本

BRICs投資

- メリット
 - 日本よりも経済成長UP＝株価の上昇
 - 為替相場の変動で利益が期待
- デメリット
 - 為替相場の損失
 - 政権の不安定
 - 投資先企業の情報が入手しづらい
 - 株価の割高

国内で買える主な新興国の商品

国名	個別銘柄	ADR	投債	ETF	GDP成長率	
					07年	08年
中国	○	○	○	○	10%	9.50%
インド	×	○	○	○	8%	7.80%
ブラジル	×	○	○	○	4%	4.20%
ロシア	×	○	○	×	6%	5.90%
ベトナム	×	×	○	×	8%	7.80%
インドネシア	○	×	○	×	6%	6.30%
タイ	○	×	○	×	4%	4.80%

ADRとETF

- ADR
 - 米国預託証券のこと
 - 1928年に創設
 - 預かり対象は米ドル以外の通貨建ての株式
 - 米国の銀行、信託銀行の発行
- ETF
 - 株式指数に連動する上場投資信託
 - 信託報酬が安い

中国の紹介

- 人口: 13億7百万人(日本の約12倍)
- 面積: 960万km²(日本の約26倍)
- 通貨: 人民元(1元=16.16円)
- 一人当たりGDP: 1700ドル/20万8千円
- GDP成長率: 10.7%
- 財政会計年度: 1月~12月
- 首都: 北京
- 政治体制: 人民民主共和制

株式市場急成長の背景

- GDP成長率が一番高い(ほぼ10%)
- 外貨準備高: 1兆ドル(日本は9000億ドル)
- 2008年オリンピックと2010年の上海万博
- 豊富な資源と莫大な人口
- 国内居住者の外貨購入限度額の引き上げ
- 2003年に国家主席の交代
- 株式時価総額: 507兆円(日本は555兆円)

中国の株式市場

種類	主な参加者	特徴
A株	国内投資家	上海とシンセン上場、市場規模が大きい
B株	外国人投資家	上海とシンセン上場、市場規模が小さい
H株	外国人投資家	香港に上場
レッドチップ	外国人投資家	香港で登記、上場

中国の株式指数と上場銘柄

- 大陸市場
 - 上海A株指数、上海B株指数
 - シンセンA株指数、シンセンB株指数
 - 上場銘柄数: (上海: 888銘柄、シンセン: 604銘柄)
- 香港市場
 - ハンセン指数、GEM指数、H株指数、レッドチップ指数
 - 上場銘柄数: 1258銘柄

中国株の購入法

- 個別銘柄、投信、ADRとETF
- 個別銘柄の購入方法
 - 証券会社で口座を作る(東洋証券、大和証券etc)
 - 現地で口座を作る
- 取引にかかる手数料
 - 国内手数料、現地手数料、為替手数料
- 外貨決済と特定口座への対応

中国株の投資

- メリット
 - 株主還元がよい
 - 株式配当利回り
 - (平均2%以上、日本は1%台)
- デメリット
 - 制限された株式市場
 - 為替のリスク
 - 情報収集の難しさ

著名企業と成長企業

- 宝鋼集団
 - 粗鋼生産量は第5位
- 中国工商銀行
 - 時価総額世界ランク4位(2007/3/31時点)
- 中国移动
 - 中国最大のモバイル
- 李寧
 - 中国最大のスポーツ用品メーカー

中国株価の推移

- 上海総合株式指数



世界同時株安

- 【震源】と言われる上海株式市場



ロシアの紹介

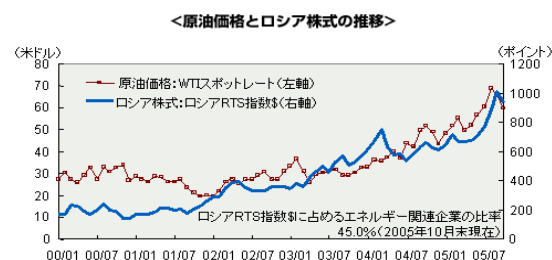
- 人口: 1億4,275万
- 面積: 2,240万km²(日本の約60倍)
- 通貨: ルーブル(1ルーブル=4.7円)
- 一人当たりGDP: 6,859米ドル(83万6千円)
- GDP成長率: 6.7%
- 財政会計年度: 1月~12月
- 首都: モスクワ
- 政治体制: 共和制、連邦制

株式市場の背景

- 天然資源が豊富
 - 石油、ガス、金属が輸出の3分の2
 - 鉱工業生産が3分の1
- 経済特区の設立
- 政府が経済基盤の産業をコントロール
- 実質個人消費伸び率(24.3%)
- 株式時価総額: 74.3兆円

ロシアの株式市場

- 原油価格の高騰に沸く株価

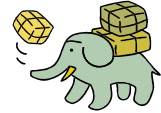


インドの概要

- 人口 10億6546万人(日本の9倍)
- 面積 329万km²(日本の約9倍)
- 一人当たりGDP 832ドル(10万1500円)
- GDP成長率 9.4%
- 産業構造 2次産業が27%ほどしかない
- 財政会計年度 4月～3月
- 為替制度 変動相場制
- 通貨 ルピー(1ルピー = 約3円)

インド経済成長の背景

- 豊富な若年人口と安価な労働力
 - 英語が準公用語
 - 政府の投資規制緩和
 - 急ピッチで進むインフラ整備
 - 拡大する個人消費
 - ソフトウェア開発を主体とするIT産業の急成長
- ↓
- **世界企業のアウトソーシング先として注目される!**



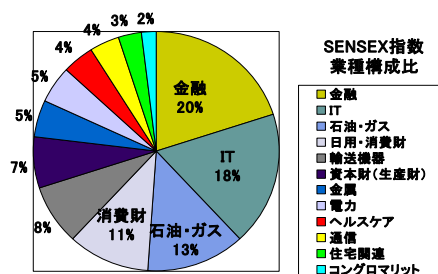
インドの株式市場

- 1992年に海外機関投資家による運用投資が認可
- アメリカに次いで世界第2位の上場企業数で株主数は世界第3位
- 株式時価総額は30兆円
- その時価総額の2～3割がIT関連
- 証券取引所は全部で23箇所ですが主なものはムンバイ証券取引所とナショナル証券取引所

インドの株式指数

- 代表的なものには
ムンバイ証券取引所の「SENSEX指数」
ナショナル証券取引所の「Nifty指数」がある
- これらは時価総額加重平均指数である
- さまざまな基準をもとに選定し、SENSEX指数は30銘柄、Nifty指数は50銘柄で構成されている

インド株業種構成



インドの主要企業

- **アルセロール・ミタル**
世界最大の鉄鋼会社。生産量は新日鉄の3倍以上。
- **インフォシス・テクノロジーズ**
売上第2位の、インド有数のソフトウェア開発企業。
- **ICICI銀行**
インド第2位の銀行。
- **タタ・モーターズ**
インド最大級の自動車メーカー。



個人投資家はインド株に 直接投資できない!??

- 機関投資家だけが直接投資できる
- 現在インドへ投資を行うには
 - ①インド株投資信託
 - ②ADR(米国預託証券)
 - ③ETF
 - ④カバード・ワラント
 などを通じての投資が考えられる
- 特に投資信託に人気が集まっている

インド株投資信託

- 現在日本で設定されたインド株投信は8本
 - 純資産に人気残高が1年で10.8倍に急増
 - 若年層人気中心
- 注意点
1. 取引金額が小額
 2. パキスタンとの領土問題
 3. 手数料が高め
 4. 組み入れ比率の差異
 5. 現金化するのに時間を要する

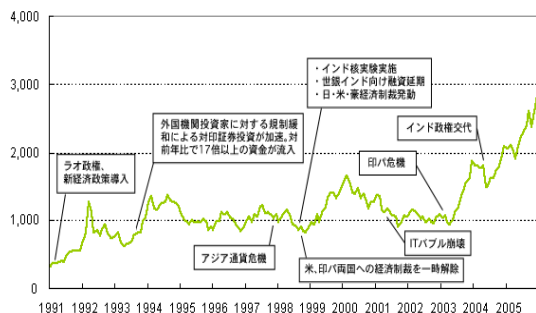
インドのADRとETFについて

- インドのADRには11銘柄ほど種類がある
- ADRは現在日本で投資できる商品では最も個別株の投資に近いもの
- インドのETFにはiShares BSE SENSEX India Trackerがあげられる
- インド投信の場合、信託報酬が2%ほどかかるがETFだと1%ですむ

カバードワラント

- 株価指数などの買う権利や売る権利を証券化したもの
- メリット
1. 小額ではじめられる
 2. 値動きが激しいので短期間で儲けられる
 3. コールとプット2種類あるので投資の幅が広がる
- デメリット
1. 値動きが激しいので短期間で大きく損をする可能性がある
 2. 期間が決まっている
- インドの場合、ゴールドマン・サックス証券が組成しているeワラントがある

NIFTY指数の長期推移



インド株式相場チャート<5年>



ブラジルの概要

- 人口 1億8352万人(日本の約1.5倍)
- 面積 851.2万km²(日本の約22.5倍)
- 一人当たりGDP 4323ドル(51万5000円)
- GDP成長率 3.7%
- 産業構造 3次産業が54%を占める
- 財政会計年度 1月～12月
- 為替制度 変動相場制
- 通貨 レアル(1レアル=65.11円)



ブラジルの株式市場

- 時価総額は65兆円(日本の約9分の1)
- 株価指数はボブスパ指数
- 指数の2割を製鉄会社、1割を鉱業が占めている
- 国際金利情勢の影響を受けやすい
- 米国との結びつきが強い
- 主な取引所としてサンパウロ証券取引所、リオデジャネイロ証券取引所がある

ブラジルに投資する方法

①ADR

- 売買できるのはわずか5銘柄
- ブラジル企業の情報を日本で入手するのは困難なため、奨励されていない

②投資信託

- 「HSBCブラジルオープン」が日本で唯一の投信
- ブラジル経済の好調を考えると有望な投信

ブラジル株式相場チャート<5年>



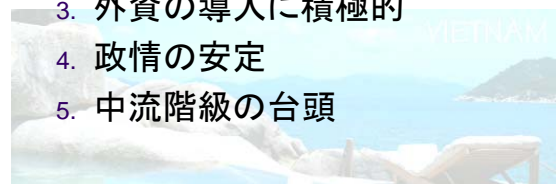
新・新興国市場「VISTA」

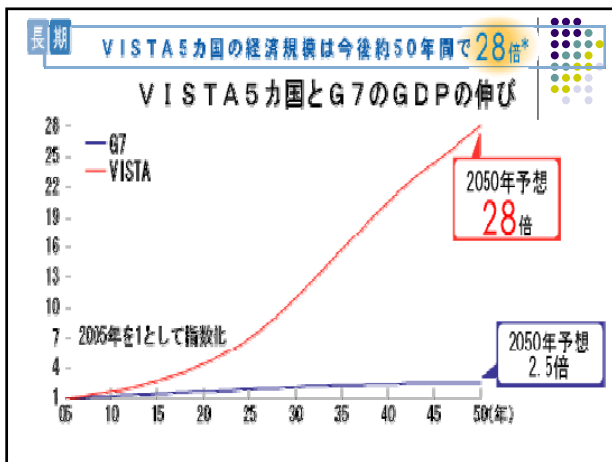
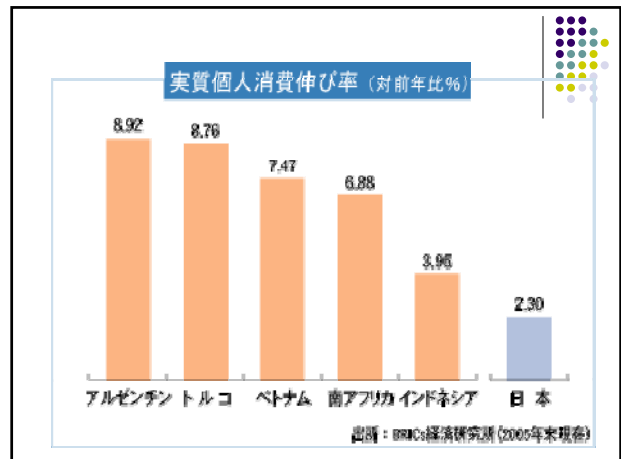
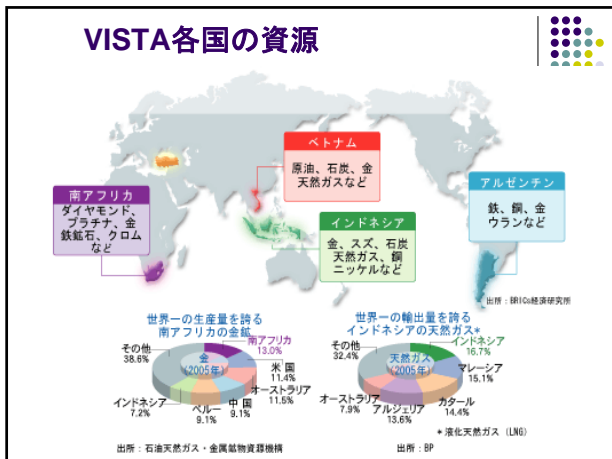
- ベトナム(Vietnam)
- インドネシア(Indonesia)
- 南アフリカ(South Africa)
- トルコ(Turkey)
- アルゼンチン(Argentina)

この5カ国の頭文字をつなぎあわせ、「眺望・眺め」という意味の英語をかけた造語。

「VISTA」の条件

1. 豊富な天然資源
2. 労働人口が豊富
3. 外資の導入に積極的
4. 政情の安定
5. 中流階級の台頭





ベトナム (Viet-Nam)

- 人口: 8440万人
- 首都: ハノイ 人口: 314万人
- 宗教: 仏教 (80%)、カトリック、カオダイ教、オアハオ教など
- GDP成長率: 8.2% (2006年)
- 輸出額: 399億2000万ドル
- 輸入額: 391億6000万ドル

ベトナムの経済

- 経済の自由化・国際化
- ASEANの中でも際立って安い賃金
- 豊富な労働力
 - 人口の半分以上が20代
- 中国に次ぐ生産拠点
- 識字率90%以上
- ⊗ 今後の人件費高騰
- ⊗ 鳥インフルエンザ

最低賃金の比較 (米ドル/月)

国名	都市	最低賃金
ベトナム	ハノイ/ホーチミン	55ドル
インドネシア	ジャカルタ	82ドル
中国	北京	72ドル
	上海	86ドル
タイ	バンコク	110ドル
フィリピン	マニラ	121ドル

ベトナムの株式市場

- 証券取引所
 - ホーチミン証券取引所(2000年)
 - 株式時価総額1兆5000億円程度
 - ハノイ証券取引所(2004年)
 - 中小企業向けの株式市場
- 配当・利益に対する課税なし
- 信用・先物・オプション取引なし
- 公開企業に対し、法人税50%免除

ベトナム株価の推移(VN指数)



ベトナムに投資する

- 日本の証券会社では個別銘柄を取り扱っていない
- 直接売買するには現地で口座開設
→ メール・FAXなどを用いて取引
- 投資信託が人気
大和証券「JPM・VISTA5・ファンド」
丸和証券「DINAM VIPフォーカス・ファンド」

参考文献

- ダイヤモンドZAI 07年8月号
- 海外投資カタログ
- 宝島 2007 AUG
- 荒井裕之「アジア株投資術」KKベストセラーズ